

研究者・技術者のための 「技術プレゼンテーション」 スキル向上セミナー

スライド作成&本番実践編

開催日時 **2026年 8月 3日(月)** **オンライン**
2027年 1月27日(水) **オンライン** 各回とも 10:30~16:30

対象

- 研究者、技術者などプレゼンによって自身の成果を伝えたい方
- 技術営業担当などで専門知識を詳しくない方にもわかりやすくプレゼンしたい方
- 成果が伝えられない、認められない方
- 結果報告や技術報告に苦手意識のある方

講師 **奥村 治樹氏** **参加料(税込)** 法人会員：60,500円/1名 参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
https://www.jma.or.jp/membership/
 会員外：71,500円/1名 ※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。

ねらい

技術者、研究者のプレゼンにおいては、まず専門知識や技術、結果をわかりやすく説明する必要があります。ところが、「発信すること」に偏ってしまい「伝える」ことができず、せつかくの努力が日の目をみない状況を招いている方が多いです。

本セミナーでは、専門知識や新しい技術を扱う技術プレゼンの特異性をふまえながら、単なる情報発信ではなく「理解させ、納得させ、人を動かすことができる」伝えるプレゼンの極意とノウハウを習得することができます。

大手企業において数々の学会発表や講演を経験してきた講師が、技術者の視点から専門知識をわかりやすく伝えるコツを解説します。プレゼンに苦手意識を持つ方もぜひご参加ください。

【おすすめ】
 本セミナー単独受講でも効果がありますが、**構想&内容準備編**を先にご受講いただくとさらに理解が深まります。

本セミナーで修得できること

- ✓ 研究開発の結果を成果にすることができるプレゼン力
- ✓ 技術者に必要な伝えるプレゼン力、説得力、承認獲得力
- ✓ 結果を成果に昇華するスキル

参加者の声

- 多くの演習に取組んだからこそわかったことがあった。頭ではわかっていたが実際にはできていないことを再認識した。自分のプレゼンは伝えるべきところが曖昧であることがわかり、次に活かしていきたい。
- 講師のプレゼンの進め方が非常に参考になった。これまで聴講者の意識・集中力を保つのに四苦八苦していたがそれを防ぐためにさまざまな工夫が成されていると実感した。
- プレゼンを行う機会が多くあり資料作成時にはある程度「型」のようなものを自分の中で持っていた。今回、対象とする相手や状況、伝えたいことなどに応じて、ストーリーを組み立てていくというプロセスを学び、とても良い機会であった。

■ プログラム【スライド作成&本番実践編】

10:30~16:30 [昼食] 12:00~13:00

1 イントロダクション(定義)

- プレゼンテーションとは
- プレゼンとは主張である
- 伝わらないプレゼン
- 演習

2 伝えるスライド

- スライド検討の基本
- スライドタイトル
- 色の使い方
- 表紙
- 円グラフ
- データの伝え方 演習
- 表の見せ方 演習
- Five line rule
- スライドフロー
- 演習
- スライドづくりのスタート
- ワンフレーズ化 演習
- フォントの使い方 演習
- イメージ化 演習
- グラフの工夫 演習
- グラフとは何か 演習
- 根拠の見せ方 演習
- Three second rule
- スライドデザインの場合

3 不安と緊張

- 聴講者をどう見るか 演習
- なぜ苦手、不安に感じるのか
- 不安・緊張の内面
- 上手に話すとは
- 緊張を和らげる
- 本番での失敗 演習

4 プレゼンに慣れるためには

- 場数
- 練習法
- 演習
- 理想イメージ

5 コミュニケーション

プレゼンターが一方向的に話すのではなく、如何にして聴講者に入り込んでもらうか、参加してもらうかについて、コミュニケーションという視点で解説します。

6 パフォーマンス

- 話し方
- NVC
- 間
- 独演会
- あなたも情報
- Passion
- 強調テクニック
- 間違った表現
- いくつかのテクニック
- つかみ
- 転の落とし穴
- 言い換え

7 質疑対応

- 演習
- 異なる意見
- 聞き返し
- 答える
- 相手の勘違い
- 嫌な質問
- 否定的発言
- リピート
- 演習

8 まとめと質疑応答

*プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

